

松生卓球道場

津市長

前葉泰幸

平成30年度インターハイ
卓球・男子シングルス優勝

戸上隼輔 さん

(野田学園高校2年)

高校王者は卓球界のサングレッド

平成30年10月10日、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)の卓球・男子シングルスで優勝された戸上隼輔さんをお迎えし、高校日本一に輝いた時のエピソードや、生まれ育った津市での思い出を前葉泰幸市長が伺いました。

撮影場所／松生卓球道場(半田)

市長 津市出身の戸上選手は、ふるさとの期待の星として、現在、山口県の野田学園高校で活躍中です。インターハイ・シングルスでの優勝、おめでとうございます。津の皆さんも大喜びでした。まずは、団体戦から始まったんですよね。

戸上 団体、ダブルス、シングルス全て優勝するつもりで3冠を目指していました。学校対抗では予想以上に早く負けてしまってショックが大きかったです。ここからまた頑張れるのかな、という気持ちはありました。

市長 団体戦が残念な結果に終わってしまって、次は男子ダブルスですね。やっぱり、3つ出るということはタフな日程なんですか。

戸上 3種目こなすとなると、相当な体力が必要になりますし、精神力も必要になってきます。

市長 ダブルスが始まったときには、切り替えはできていましたか。

戸上 正直、まだ学校対抗で負けてしまったショックが大きくて、自信はなかったです。

市長 ダブルスのパートナーも一緒にショックを

引きずっていたのですか。

戸上 はい、あまり思うようにいきませんでした。

市長 次はシングルスですが、1年生の時は準優勝だったんですよね。今回は優勝したいという思いがあったのではないですか。

戸上 前回は決勝に進んだことで満足してしまった部分がありました。悔しい気持ちがあったので今回は優勝したい思いはすごくありました。

市長 1年生での決勝戦進出は、すごく頑張ったと思うのですがそれでも悔しかったですか。

戸上 決勝までいったということは自信になりましたが、やはり悔しかったです。

市長 男子シングルスだと決勝戦までいくのに何試合くらい戦うのですか。

戸上 だいたい7、8試合ですね。

市長 大変ですね。2日間くらいかけて試合をするのですか。

戸上 2日間で1種目です。

市長 準決勝まで勝ち抜いて、いよいよ決勝戦。相手は愛工大名電(愛知県)の田中佑汰選手でし